

デザイン支援



弥生屋

素材と柄にこだわりを。
独自のデザインと企画で
和装の楽しさを広げたい



心地良い素材や
簡単に纏える仕立てで、
和装をもっと身近に
取り入れて欲しい

和裁に魅了されて事業をスタート

岩手県出身の沼倉弥生さんは、結婚を機に秋田県由利本荘市に移住。その後、妊娠・出産を機に大曲へ転居。義母が洋裁のプロだったことから、洋裁を教えてもらい、自分の子どもの服を作るようになった。自分の手で衣類を作る楽しさに目覚めた沼倉さんは、和裁にも挑戦。国家資格である一級和裁士に習い、7年ほどかけて和裁の技術を身に付けた。

和裁士はオーダーされた内容を形にすることが仕事だ。一方、幼いころから和装に興味のあった沼倉さんは、自分のオリジナルのものが作りたいという思いを抱き、一念発起。平成31年に「弥生屋」を立ち上げた。染め物のことも一から学び、自身でデザインを手がけ、プリントとは違い表裏無く染まる「注染」と呼ばれる伝統的な手法で染物店に依頼し、反物を仕上げていく。また、肌触りの良い「綿ちりめん」を使うなど、素材へのこだわりも。そこには夏でも涼やかに和装を楽しんでほしいという思いが込められている。

デザイン支援を活用し周知や集客に力を入れる

オリジナルの反物から浴衣を作ることはできたものの、和装はマイナーなジャンル。どのように周知し、集客を行うべきか令和3年に活性化センターへ相談をした。デザイン支援の担当者とともに、ブランドコンセプトを整理し、自身が最初にデザインした「ラブレター柄」をベースに想いを明文化していった。

また、バイヤー向けの展示会での見せ方のアドバイスを受けるなど、必要に応じて相談。現在は実店舗を持たず、オンラインストアでの販売や展示会を行っている。

「普段の生活の中で和装を取り入れることにハードルを感じるという方が多いですが、もっと気軽に生活に取り入れていただけるよう、快適な素材を用い、簡単に美しく着用できる半襦袢や、和洋兼用できるステテコなどのインナーの開発にも取り組んでいます」。

昨年は南青山で展示会を行い、それがきっかけとなり、伊勢丹新宿店での展示会も開催。実際に手に取ってもらい、魅力を伝えられる機会を増やしていきたい、と意気込みを語った。



ぬまくら やよい

代表 沼倉 弥生

弥生屋

〒014-0023

大仙市大曲黒瀬町3-6

TEL:0187-73-9024

FAX:0187-73-9024

<https://yayoiya.theshop.jp/>



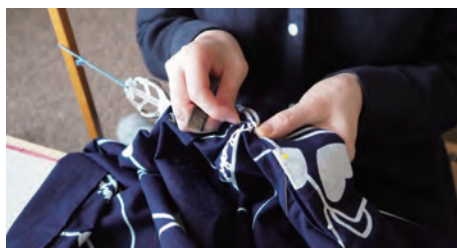
HP

▶活用事例
デザイン支援

産業デザイン、製品開発、マーケティング等についての専門的な助言や、デザイナーとのマッチングを支援します。

【お問い合わせ】

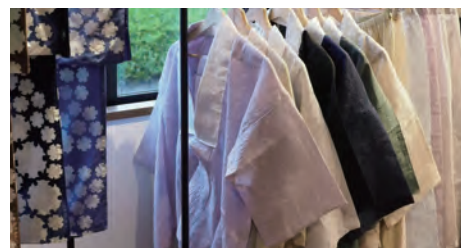
知財・デザイン支援課
TEL. 018-860-5614



一人一人のサイズに合ったものを作りたいという思いから受注生産も行っている。



アオザイからインスピレーションを受けて制作したチュニックとパンツ。今年から新たに展開を始めた。



近江ちぢみという麻の素材を使い、着用しやすいよう設計したオリジナルの半襦袢。